

行政報告

湯沢町長 上村清隆



12月10日から連日のように降り続く記録的な大雪のなか、各スキー場は2006年シーズンの幕開けとなりました。安定した積雪のもとに、湯沢町のホワイトシーズンが賑わうことを期待しているところでもあります。

9月から10月にかけては各種事業が開催され「秋桜ハーフマラソン1千700人」、「苗場MTBマツダカップ650人」、「中里秋祭り4千300人」、「こらっしやい湯沢収穫祭6千500人」と多数の参加をいただきました。

湯沢温泉ロープウェイの夏季営業は11月で終了いたしました。大変厳しい営業結果となつてしまいました。これは「アルプの里」の魅力低下なども考えられることから更なる研究が求められております。

10月16日には町制施行50周年記念式典並びに観光町宣言を行い、この日を「ありがとう湯沢の日」の記念日に制定することが決定されました。

また、この記念事業の一環として10年の歳月を要した「町史」を発刊することができました。郷土の先人たちの生活と歴史の流れを後世に伝えるため、広くご利用いただければ幸いです。合同検診は、5月から7月まで地域を巡回し、12日間実施いたしました。また、9月から12月まで、未受診者の方のために施

設検診を24日間実施し、基本検診では、受診申込者2千662人中、1千605人が巡回合同検診を受け、施設検診では157人が受診いたしました。

また、地域における歯科保健事業において公衆衛生の向上に著しい功績があったとして、10月12日に湯沢町が「厚生労働大臣表彰」を受賞いたしました。

今後、湯沢町ファミリー健康プラン」に基づく健康づくり事業を進めてまいります。

船沢橋の工事用仮設道路は200mが完成いたしました。

この船沢橋の本体工事費の一部については、昨年度創設された「まちづくり交付金」の対象事業として国土交通省に申請しているとおりであり、採択されることを願っております。

都市計画街路中央線は、谷地から楽町間が未整備でありましたが、地元の方々の長年の活動が実を結び、本年9月に国から事業認可が下りたところであります。現在、新

潟県で平成22年までに延長330m、幅員15mの道路改良を行うべく、用地測量等を始めております。

今後町では、この県道と接続する町道の整備を行い、通学路として、より安全性の高い道路整備を目指し、検討しているところであります。

湯沢町公民館は幅広い事業活動と積極的な取り組みが高く評価され、「優良公民館・文部科学大臣表彰」を10月31日に受賞いたしました。また、併せて、湯沢町の健康・体力づくり運動の積極的な推進が評価され、「体力づくり国民会議議長賞」を受賞いたしました。

10月1日の国勢調査の集計結果は、人口8千713人、世帯数3千275世帯で、前回平成12年調査との比較で、人口で417人、世帯数で33世帯の減少となりました。

温泉管理事業の民営化につきましても、事業移管をおこなうべく源泉所有者と協議を進めております。なお平成17年11月15日には、源泉の供給維持管理を目的とした「湯沢温泉事業有限公司」が源泉者の出資によって設立されました。平成18年4月1日の事業移管を目指し、円滑に民営化が行われるよう更に努めてまいります。

